

全国高等学校総合体育大会実施時における新型コロナウイルス感染症

拡大防止等に関する基本方針

「－レスリング競技における対応策－」

●全般的な事項

- 感染防止のため主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所に掲示する
- 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認する
- 障がい者や高齢者など利用者の特性にも配慮する
- 大会後に参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、施設の立地する自治体の衛生部局とあらかじめ検討する
- その他の対策

●手洗い場所

- 手洗い場には石鹸（ポンプ型）を用意する
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする
- 布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しない
- 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意する
- その他の対策

●更衣室、休憩・待機スペース

- 一度に入室する参加者の数を制限する
- 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）をこまめに消毒する

- 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮する
- その他の対策

●洗面所（トイレ）

- トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒する
- トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する
- 手洗い場には石鹸（ポンプ型）を用意する

●飲食物の提供時

- 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛ける
- スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供する
- 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること
- その他の対策

●大会会場

- 室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う。
- 換気設備を適切に運転する。
- 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと
- 選手、監督、コーチ、役員等は最小限の人数とする。
- 入退場時にアルコール消毒を行い、マットに上がる際はシューズの消毒を行う。
- 試合後は速やかに退場する。
- マットの消毒は1時間あるいは10試合程度を目安に行う。
- ウォームアップ会場の使用について計画を立て、会場内の人数制限を行い、密集を避ける。
- 会場内は観客席を含め、全ての者がマスクを着用する。

●競技関連

- 試合終了時のセコンドと選手の握手は行わず、礼を代わりとする。
- 試合開始時と終了時の選手と審判の握手は行わない。
- 試合開始時の審判による選手のボディチェックは目視で行い、接触を避ける。
- 計量時のメディカルチェックを目視で行い、接触を避ける。。
- マスクを着けたまま、計量を行う。体重超過の選手はマスクを外して計量することができる。
- 試合中、セコンドはマスクを着用すれば選手にアドバイスすることができる。
- 学校対抗戦の試合中、ベンチメンバーははマスクを着用すれば応援することができる。
- レフェリーはフェイスシールドを着用して審判を行う。ジャッジ、チェアマンはマスクを着用する。

●ゴミの廃棄

- 鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用する。
- マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する

●その他（参加者への留意点の周知）

《周知内容》

- 運動・スポーツをしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離（※少なくとも2 m）を空けること（介助者や誘導者の必要な場合を除く）
- 強度が高い運動・スポーツの場合は、呼気が激しくなるため、より一層距離を空けること
- マスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をすること
- 前の人の呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること
- 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと
- タオルの共用はしないこと

- 飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにすること
- 同じトング等での大皿での取り分けや回し飲みはしないこと
- 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外（例えば走路上）に捨てないこと